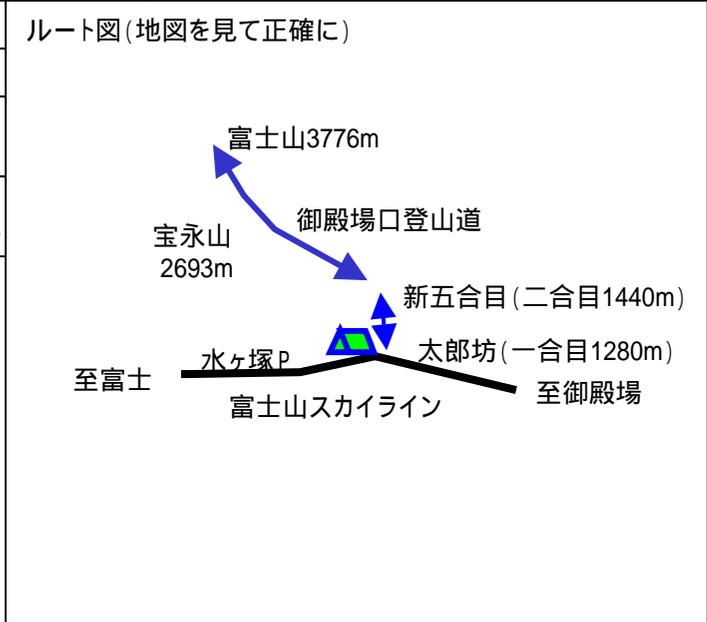


1月 <small>例会</small> <b>山行報告書</b> <small>個人</small>		報告者	亀山誠	参加 メンバー	CL:亀山 誠
		報告日	1月17日		
山域		山行日	07年 1月1日 ~ 3日		
山名	富士山				

山行目的	冬富士を楽しむ	コースタイム(天候:天気図記号)
------	---------	------------------



1 / 1 (晴れ)
5:00 御殿場口太郎坊(一合目)起床 6:30 出発
13:10 - 20 九合五寸
17:00 太郎坊(一合目)
1 / 2 (曇り・小雨)
休養(散策)
18:00 水ヶ塚公園P(富士山スカイライン)
1 / 3 (晴れ・曇り)
3:00 起床 4:20 太郎坊(一合目)出発
12:10 - 30 富士山頂上(剣ヶ峰)
16:30 太郎坊(一合目)
21:00 岡崎

### 山行報告

06年冬山合宿(7名)は八ヶ岳で無事終了し、その日のうち(31日)に富士山御殿場登山口の太郎坊(一合目)まで入る。翌元旦、富士山登頂を目指すも、頂上を目前にして西側からの強風にひるみ、登行を断念し無念の下山となる。2日は、天候が思わしくなく、登る意欲も湧かず、箱根辺りを散策と芦ノ湖にて大学駅伝往路ゴール付近で大学生の熱き戦いに接する。その後、帰途に就いたはずであったが、学生の情熱に感化されたのか、富士山再アタックに備え、水ヶ塚公園駐車場にて早目の就寝とする。3日、朝食後、一昨日と同じ太郎坊より歩き出す。心配された天候は上々であり、冬季閉鎖された舗装路を新五合目(二合目)まで歩き、これより凍結した砂地の登山道を宝永山の右肩方向へ一直線に歩き出す。三合目辺りより雪道となるが、ルートは溝状ではなく、フラットであり、傾斜も緩いが早めにアイゼンを装着する。頂上付近は見えているが、思ったより近づいてこない。六合五寸(標高3000m)辺りは傾斜もあり雪が硬く、場所によっては一面氷状態でヒヤットさせられる。避けながら登る。一昨日風が強かった八合目付近でも風は弱く安心して高度を稼ぐが、中々キツイ。一昨日の撤退地点から15分ほど登ると、急に傾斜が緩くなり、富士山頂上(剣ヶ峰)の一端へ登り着く。お鉢を右回りで歩き、まもなく剣ヶ峰(3776m)頂上へ立つ。たった一人だけの頂上であり、一旦は敗退しあきらめた富士の頂上に立て、心にジーンと熱い物を感じ、「日本最高点富士山…」の石柱へ手を回し唇を触れ、登頂させてくれた富士山に感謝した。それと、無意識に雄叫びを發したような気がした! 数枚の写真撮影と短文の携帯メールを発信し、頂上を後にした。快晴、微風の好条件の中、快適に下降する。しかし、宝永山の肩近く(標高2500m)までくると、突然、雲の中へ突入、ホワイトアウトである。足元わずかしき視界が利かず一瞬戸惑ったが、方位磁石を手に持ち、東南東へ下降。この辺りより、高さ4~5mの杭が70~80m間隔に立てられおり、新五合目まで続いている。それを外さないように慎重に下降する。新五合目の大駐車場を視界に捉えた時、無事下山を確信した。夕闇迫るころ、太郎坊トンネル横に駐車ウォクシーに無事下山する。

富士山頂(剣ヶ峰)



### <リーダー所見>

私は富士山の初登頂は6年ほど前であり、わりと遅い。以前から観る山・人が多い・いつでも登れる、と思っていたので、あまり登る事に魅力を感じていなかった。夏・秋・春そして今回、冬富士だった。富士山も登り方によってしっかり楽しませてくれる山だと思った。

確認  
()

作成  
()